

国語 第3学年 中心人物について考えたことをまとめよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の9月～10月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、人物について考えたことをまとめる。最後の大きな行動だけで人物を決めず、前の場面での姿や他の人物との関わりも確かめる。単元の終わりに残すのは、中心人物の紹介文。考えた人柄、根拠となる行動や会話、別の場面との関係を記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)イ	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)イ	イ 詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。

単元の目標

行動や気持ち、性格を表す語句の意味を確かめ、人物を説明する文章で使える。中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①行動や気持ち、性格を表す語句の意味を確かめ、人物を説明する文章で使っている。〔知識及び技能〕(1)オ)	①「読むこと」において、中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめている。(C(1)イ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全9時間（読む9）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○全文を読み、中心人物への最初の印象を記録する。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2～3	○前半の行動や気持ちを場面の叙述から確かめる。	知①（語句や内容の整理）
	4～5	○後半の行動を読み、前半との関係を考える。	学習状況を見て支援する。
	6 （本時）	○人柄を表す言葉を選び、異なる場面の行動を根拠に説明する。	思①（発言・学習記録）
	7	○人物紹介文を書き、根拠の不足を読み手と確かめる。	学習状況を見て支援する。
	8	○紹介文を交流し、着目した場面や人柄の言葉の違いを聞く。	学習状況を見て支援する。
第3次	9	○初めの印象と比べ、叙述から人物を捉える読み方を振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめられる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「中心人物のどんな人柄が、どの行動から伝わりますか。前の場面にも、その考えを確かめられるところがありますか」 【めあて】中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、人物について考えたことをまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・最後の行動を読むと、前の何気ない行動も気になる。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「中心人物のどんな人柄が、どの行動から伝わりますか。前の場面にも、その考えを確かめられるところがありますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・最後の行動を読むと、前の何気ない行動も気になる。 ・会話と行動を合わせると違う人柄が見える。 ・強そうに見えることと気持ちは同じではない。	人物についての言葉の横に根拠の場面を書き、別の場面で確かめる。語句が出ない場合は性格を表す言葉を集め、近い意味の違いを辞書で調べる。 想定する難しさ：勇敢だ、やさしいなど性格の語だけを答える。根拠が最後の場面に偏る。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・強そうに見えることと気持ちは同じではない。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「中心人物のどんな人柄が、どの行動から伝わりますか。前の場面にも、その考えを確かめられるところがありますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、勇敢だ、やさしいなど性格の語だけを答える。根拠が最後の場面に偏る。この場合は、人物についての言葉の横に根拠の場面を書き、別の場面で確かめる。語句が出ない場合は性格を表す言葉を集め、近い意味の違いを辞書で調べる。おおむね満足できる状況は、中心人物の行動や気持ちを叙述から捉え、根拠を挙げて人物について考えをまとめているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ 中心人物の紹介文。考えた人柄、根拠となる行動や会話、別の場面との関係を記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。
交流と見直しの記録 交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_3_202503.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価規準の観点と記録の考え方。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

